

コロナ禍 校庭を開放し、公園の混雑緩和を

☆緊急事態宣言下「校庭開放」の中止について
 星) ①体温を小学校に毎日報告しているため、熱のある子を確認できる。その児童が放課後を自分の学校の校庭で過ごすのだから、不特定多数の子が集まる機会を公園よりも減らせる②校庭開放に参加するには受付を通るため、そこで手指消毒ができる③校庭を閉じていることで、近隣の公園が混み合ってしまう。

4月23日からの緊急事態宣言に伴う「校庭開放」の中止に対して、「校庭を使える方が合理的である」との趣旨でご意見を保護者からお聞きしている。14人からそれぞれにお聞きしたが、この3点は共通して言われている。この意見を市

はどのように受け止めるのか。

市) 宣言の再発出により、徹底した外出自粛が国・東京都から要請されている。市民の生命と健康を守ることを第一優先と考えたときの最適な手法として、こうした方針を組み立てている。

☆地域の声で作上げる「戸倉公園」に

星) 市民の意見に基づき都市計画公園「戸倉公園」の実現を要望し続けている。「整備の進め方」に関する知識が私にはない。そのため、公園設計に詳しい市民の方からレクチャーを受け、「どのような公園にするのか」との「コンセプト」を決める段階が重要であることを学んだ。この点をどのように進めようと考えている

立憲・市民フォーラム
 星 いつろう



のか。

市) 戸倉公園のコンセプト案は、2022年度に市民に示し、ご意見を伺い決定していきたい。

星) 十小や五中の児童生徒、PTA、自治会、障がい者施設、保育所など、公園予定地の周辺のみなさんの声を基盤に、具体的な公園づくりを進めていただきたい。市役所が住民のもとに足を運ぶ「ヒアリング」も行い、地域にある豊富なアイデア・意見を集約していただきたい。市) 団体へのヒアリングを含めて、市民意見聴取の方法については今後検討していく。

だれもが生活しやすい地域へ

◆居場所について。問) こども食堂の現状と拡充を。市) 現状は、指定管理者が2か所自主事業で実施。並木公民館では収穫野菜を調理し、食べて地域の多世代交流を行った。今後の必要性等を確認し課題等の整理をしていきたい。公民館は学びの場で子どもの貧困や孤食といった地域課題を解決する講座の実施は可能と考える。

◆ヤングケアラー支援。問) 市の取組と当事者に届く支援は。市) 相談支援総合調整会議で情報共有。表面化や実態把握の難しさが課題で、福祉医療分野と教育との連携が重要。小・中学校では、児童生徒が身近な大人に自ら助けを求めることができるよう各学校でSOSの出し方

の教育に取り組んでいる。市報やツイッターで情報発信し当事者に届く取組を推進したい。

◆ひきこもり支援。問) 現状と関係機関との連携は。市) 相談は本人の家族からが多く、内容は多重化、長期化の傾向が見られる。福祉・保健・医療・雇用・教育等連携し対応が必要。若者支援地域ネットワーク会議で重層的、継続的な支援の推進体制で既存の組織で支援を進め、家族会等については、研究する。

◆高齢者施策について。問) 認知症当事者の声を生かす取組と身近に行ける認知症カフェの開催を。市) 国の認知症施策推進大綱の施策に普及啓発、本人発信支援がある。昨年度、認知症

立憲・市民フォーラム
 はせば 豊子



の御本人に認知症サポーター養成講座でお話をさせていただいた。コロナ感染状況を見ながら、様々な形態の認知症カフェの展開を検討する。

◆再犯防止の取組について。問) 再犯しないよう当事者に届く相談先情報を。市) 市のあらゆる施策の中で必要な支援が届くよう、関係機関と連携しながら取組を進める。

◆自治会町内会の支援。問) 加入状況と支援を。市) 4月1日現在37.59%、昨年より微増。各団体の活動情報を市HPで掲載し、町内会と参加希望者をつなげるための準備を進めている。

住み続けたいまちづくり

野川整備について

長年、熱心に清掃活動、野川の周知等を続ける市民団体から整備の要望が続いている。今、また新たな市民活動の声を聞く。経済、快適性、防災等を優先にして恩恵を受けてきた。それを理解し、未来に向けて自然豊かな野川を再生する責任があると思うが如何か？ (市) 機運醸成を進めてきた。更に要望を都に伝える。

公園整備について

(一時避難場所のない地域の取り組みについて) 一時避難場所がない地域での地区本部の運営場所への対応は？ (市) 出来る限りの対応をしている。今後は地域の要望を聞き調整、取り組

みたい。新たな公園設置も視野に入れる。

国分寺駅南口整備について

「かがやき像」台座、景観、バリアフリー、ぶんバス乗場の並び等。問題あり、対応を伺う。

(市) 現在JRと課題の共有、今後の維持管理、整備について協議を進めている。来年度には市民参加を行い整備方針をまとめ、整備を進めたい。

自殺対策について

命を守る直接的な取組み。進め方を伺う。

(市) 関連する事業の施策を総動員、生きることの包括的な支援と周知を進め、支えあいたい。

成年後見制度について これから大切なこと。制度の取組みについて伺う。(市) 早い段階か

自由民主党市議員
 尾作 義明



ら周知啓発を続けて行う。補佐、補助と段階的な利用も広め、受入れ側の人的態勢も整えたい。

高齢者住宅について

住み続けたい場所の選択ができる事は大切。(市) 住み続けたい思いに応えたい。サービス付き高齢者住宅について看取りまで含めて調査。安心と選択肢を確保する。鋭意取組む。

身寄りのない市民の葬儀について

現状について責任を持って葬送していることを確認。今後の単身者増加への対応を想定し、今後の調査、研究を求める。

子どもたちのSOSを見落とさない目を！

◆介護報酬改定は、介護事業者感染症や災害発生時の業務継続に向けた計画策定や訓練、認知症介護の基礎研修など様々な対応を義務づけた。支援が必要だ。(答) 情報提供し各事業所が適正な対応を図れるよう支援する。事業所のニーズを把握しながら市独自の研修等も企画していく。(問) 同居家族や二世帯住宅では、生活援助が使えず介護離職になることがある。利用決定の判断基準は？ (答) 国は個々の利用者の状況により判断すべきとしている。市でも確認シートを作成し、適切なアセスメントを実施した上で、ケアプランに位置づけることとしている。同居家族のいる場合の算定に慎重な事業

所があると聞く。適正に対応するよう周知を図る。(問) 総合事業のサービスAは、市の研修修了者が担うことを想定した報酬単価になっているが、訪問型ではほぼ全て、通所型で半数が有資格者。報酬の考え方の整理が必要だ。(答) これまでは国が上限を定めてきたが、今回、国が定める額を勘案して市が定めることになった。検討を進める。◆ヤングケアラーの概念を理解していないと「家の手伝いをよくするよい子」と捉え、その存在に気づけない。子どもたちが過ごす学校での理解が必要だ。(答) 重要なこと。校長会で伝えるなど機会を見て周知していく。(問) ケアラー自身がどうしたいかを選べるサ

無党派(国分寺・生活者ネットワーク)
 高瀬 かおる



ポート体制を！(答) 庁内連携を図り、市の状況に応じた体制整備に努める。◆長引くコロナ禍で、家庭環境の変化や多くの情報に不安やストレスを抱える児童・生徒もいる。丁寧の様子を見守ってほしい。(答) ひとり一人を見つめながら、教職員が組織的に重層的な支援を行っていく。◆都は就労困難者が雇用契約を結び、他の従業員と共に働く事業所「ソーシャルファーム」を認証し支援する制度を始めた。普及啓発を！(答) ソーシャルファーム支援センターを案内し共催するセミナーなどで周知啓発する。